

総合資源エネルギー調査会  
長期エネルギー需給見通し小委員会（第8回会合）  
議事概要

日時：平成27年4月28日（火）14:00～16:00

場所：経済産業省本館17階 1～3共用会議室

議題：エネルギーミックスについて

出席者：

坂根正弘委員長（小松製作所（株）相談役）

伊藤麻美委員（日本電鍍工業（株）代表取締役）

橘川武郎委員（東京理科大学イノベーション研究科教授）

河野康子委員（（一社）全国消費者団体連絡会事務局長）

小山 堅委員（（一財）日本エネルギー経済研究所常務理事）

高村ゆかり委員（名古屋大学大学院環境学研究科教授）

野村浩二委員（慶応義塾大学産業研究所准教授）

増田寛也委員（野村総合研究所顧問、東京大学公共政策大学院客員教授）

山地憲治委員（地球環境産業技術研究機構理事・研究所長）

山名 元委員（原子力損害賠償・廃炉等支援機構副理事長、京都大学名誉教授）

欠席者：

柏木孝夫委員（東京工業大学特命教授）

高橋恭平委員（昭和電工（株）代表取締役会長）

中上英俊委員（（株）住環境計画研究所代表取締役会長）

安井 至委員（（独）製品評価技術基盤機構名誉顧問）

## 経済産業省

上田資源エネルギー庁長官、高橋資源エネルギー庁次長、吉野大臣官房審議官、土井大臣官房審議官、住田資源・燃料部長、木村省エネルギー・新エネルギー一部長、松尾総合政策課長、片岡大臣官房参事官、石崎電力基盤整備課長

## 内閣官房

吉川副長官補室参事官

## 内閣府

宮原政策統括官（経済社会システム担当）付企画官（社会基盤担当）

## 外務省

森本経済局経済安全保障課首席事務官

## 農水省

土橋再生可能エネルギーグループ長

## 国交省

長谷地球環境政策室長

## 環境省

瀧口低炭素社会推進室長

## 長期エネルギー需給見通し小委員会（第8回会合） 議事概要

1. 冒頭、発電コスト検証ワーキンググループについて、山地委員（同WG座長）から報告。

2. 次に、長期エネルギー需給見通し骨子（案）について、事務局より説明。

### ＜委員からの主な御意見＞

- 原発については、使用済核燃料が今後どうなるのか等の問題がある。風力は可能性があると思っており、系統や環境アセスの問題もありしっかりと取り組んでいく必要がある。
- 再エネ22～24%、原発20～22%という水準では、再エネを最大限導入し、原発依存度を可能な限り低減させるというエネルギー基本計画の方針に沿ったものとなっていないのではないか。
- 再エネ24%というのは政策的に約束できる上限値ではないか。原子力は22%より少し増える位あるべき。また政策的なプランなしでエネルギーミックスの数値目標を議論するのは絵に描いた餅。
- 太陽光はより積み増す余地があるのではないか。
- 資源の少ない日本にとって、エネルギー安全保障の問題は最も重要な課題であり、国際的なエネルギー情勢には大きな不確実性があるということを見みると、自給率の引き上げについてさらに工夫することが重要。
- これまで専門家が集まり議論を積み重ねてきたわけであり、委員会として、一つの考え方、案を示していくことが大事。
- エネルギーコストを極力下げ、技術力のある企業が廃業に追い込まれないようにするべき。
- 3Eの目標を定量的にかみ砕いて、ミックスを導いているところに論理性がある。特に、電力コストを現状より引き下げるというバリアを設けたことで、再エネの最大限の導入と国民負担の抑制の両立をうまく導いている。
- エビデンスに基づいた議論をしており評価できる。また、過去のミックスに比べてもバランスの取れたものになっているのではないか。

事務局案として提出された長期エネルギー需給見通し骨子（案）は、議論の結果、坂根委員長に一任となった。

（以上）